

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

※生成 AI による要約を行なっています。

令和 8 年 2 月 10 日 蛭川振興会 農林商工部会(石材組合)

司会)

岐阜県花崗岩販売協同組合長より挨拶。

組合長)

昨年の JR 東海陳情への同席に感謝。今回は対話集会として開催。組合課題や展望について話し合いたい。

市長) 対話集会の機会に感謝。市長就任 2 年で 43 回目の対話集会。年齢や団体を問わず市民との対話を重視。限られた時間を有意義にしたい。

参加者)

蛭川のみかげ石について市長の率直な感想や意見を求める。

市長)

蛭川・苗木のみかげ石は中津川市の重要な PR 材料である。名古屋城石垣などでも使用。花崗岩地盤の強さは企業誘致や家を建ててもらうなどの売りになる。

参加者)

蛭川みかげ石は 3 種類あり、各丁場で特徴が異なる。中国材の影響で採石場が減少し、現在 17 業者。後継者不足が最大の課題である。

参加者)

後継者問題の根本は仕事不足である。地震対策や耐震構造の技術開発に力を入れている。

参加者)

田口石材は石鳥居製作で全国シェアナンバーワン。阪神大震災を機に愛知工業大学と耐震鳥居を開発。石造物の保全も重要な仕事である。

中津川市から石造物点検を委託され 30 件ほど調査。中津高校下の古い灯籠を耐震補強した実績がある。歴史的石造物の保全に取り組んでいる。

参加者)

組合員数は 1977 年の 65 社から 2024 年には 17 社に減少。地場産業としての石材業界の位置づけについて市長の考えを聞きたい。組合でリニア駅前モニユ

メント製作の希望がある。市長の考える地場産業へどう関わればいいのか知りたい。

市長)

石材について素人だが、市民に蛭川の石の素晴らしさを知ってもらうことが第一歩。全国・世界への発信も必要。まず知ってもらうことから始める。

参加者)

市職員への地場産業教育を提案。採用試験で地場産業に関する問題を出すなど。

市長)

試験への導入は別として、市職員が中津川市の産業を知ることは重要。また、周知にはいろいろな方法、広げかたがあると思う。

参加者)

市職員の縦割り連携不足を指摘。過去に中国材使用のトラブルがあった。部署間の意思疎通改善と、組合にぜひ相談をしていただきたい。

市長)

税金で作るので金額を合わせるのは当然だが、極力地元材料を使用するのが鉄則。相談が当然するべきである。後継者不足は全業界共通の課題である。

参加者)

蛭川観光協会として、手形を使った観光資源化を提案。リニア駅前や市内各所での展開を希望。寅さんやソーラーブドウカンの手形事例を紹介。同様の取り組みの拡大を提案する。ソーラーブドウカン出演者の手形は30～40個ある。ファン誘致効果も期待できる。

市長)

そのような集客も一つあるかもしれない。

参加者)

市職員の産業見学を提案。採石場や工場見学により地元産業への理解を深めてもらいたい。

市長)

まずは自分が見学に行きたい。百聞は一見に如かずで、実際に見ることが重要で

ある。

市長)

YouTube 等での採石・加工動画配信を提案。付知の木材業者の成功事例を紹介。若者の就職につながる可能性がある。

参加者)

職員との標柱建設の連携事例を紹介。人事異動により異動前の部署と連携が途切れる問題があるが異動後の部署での新たな連携もあり。自分たちの営業不足もある。

市長)

市内部の引き継ぎ不足など至らないところもあったかもしれない。縦割りではなく横の連携が重要である。

参加者)

建設工事になると連携は困難。上手に振り分けをしてもらえればいいが、金額重視のみだと地元材が選ばれない現状がある。

市長)

市役所も人材を育てなければいけない。

参加者)

組合の歩みを説明。戦後から現在まで約 90 年の歴史。バブル期は 50～60 億円の生産額、現在は 1～2 億円に減少。

参加者)

墓石リサイクル事業を新規事業として推進中。県の産廃許可取得に向け準備している。組合生き残りの重要な手法である。墓石を砕石にリサイクル。コンクリート砕石より環境に優しく品質も良い。蛭川村時代からの借地で事業展開予定。

市長)

付知の「森林の市」でのブース出展を試みえるが、そのような PR 活動は重要。

参加者)

「Wonderful Woods」について説明をうかがいたい。

市長)

令和 9 年度からの 10 年間の中津川市総合計画の将来都市像。「ワンダフル」はわくわくする意味、「ウッズ」は森林だけでなく、川は山、歴史や文化、食べ物などを含む中津川の資源全体を表す。

リニア開業に向け、中津川固有の資源を活用したまちづくりを目指す。

石材については、石割体験等の観光資源化も可能である。

参加者)

石積み職人として 40 年の経験。石積みは馬籠等で外国人観光客の注目を集める。

地元のものには、地元で採れた石を活用することを推奨する。

ここにあるものを利用し、地域の意見も取り入れていただきながらやっていただきたい。

市長)

外国人には精密な石積み技術が感動するのではないかと思う。

参加者)

日本人と外国人では評価ポイントが異なるため、良い方向に進めば事業拡大につながる可能性がある。

司会者)

組合として団結し、総合計画への提案をしていきたい。他業界との連携や外部機関の活用も大切にしながら、お互いよりよいものにしていければと思います。

本日は、ありがとうございました。

市長)

市でできることは限られるが、イベント時の活用や広報、職員の知識習得などから始める必要がある。石の使用例や特徴・品質について皆さんの知識を教えてもらいたい。蛭川の石も市や岐阜県の売りになると考えており、そのためのアイデアを教えていただきたい。まだどうなるか不明だが、JR 中津川駅前の交通渋滞や使い勝手の悪さを改善するため、数年かけて整備する計画を立てる予定。第 1 弾として正面ロータリーの池を撤去し、イベントなどで使える平らなスペースを作る予定。これは仮設的な整備。仮設整備の段階では石を敷くのは難しいということにご理解いただきたい。最終的なロータリー全体の再整備時にはみなさんからもアイデアをいただきながら何か石を使いたいと考えている。